



2017年イギリス総選挙にて。6月7日、英北部グラスゴーの集會に出席した労働党のコービン党首（ロイター＝共同）。

チーム・コービンは イギリスを変える

藤澤みどり

ふじさわ・みどり 英国ロンドン在住。ジャーナリスト、翻訳家、校閲者。共同訳・校閲書に『冬の兵士 イラク・アフガン帰還米兵が語る戦場の真実』、『調査報告 チェルノブイリ被害の全貌』（いずれも若波書店）など。ジエレミー・コービン労働党党首の党首選と総選挙を記録したアレックス・ナンズ氏の近著翻訳を二〇一九年三月に刊行。

メイの解散戦略とコービンの対抗策

その朝ラジオのスイッチを入れると、興奮したジャーナリストの声飛び出した。二〇一七年四月一八日朝のことだ。午前一一時一五分に首相官邸前でテリーザ・メイが重大発表をするという。その約三週間前に、英国はEU離脱^{ブレグジット}手続きを開始するためのリスボン条約第五〇条（EUの基本条約で加盟国の離脱を定めた条項）の発動をしており、まもなく始まるEUとの離脱交渉の前に与党の足腰を強くしようと、期日前解散総選挙に打って出るのではないかとジャーナリストは言った。案の定、メイ首相は六月八日に総選挙を実施すると発表し

た。五月初旬に統一地方選があるため、二つの運動期間を合計すると選挙戦は七週間の長丁場となる。二〇一一年に成立した議会任期固定法によると、期日前選挙実施には議会の三分の二の賛成が必要だが、メイ首相が唱導する強硬なブレグジットを緩和するためには与党の過半数を削がなければならず、野党が選挙を拒む理由はなかった。しかしこの頃、労働党の支持率は低迷しており、大敗してコービン党首が辞任を余儀なくされることを恐れた支持者の中には、労働党は解散総選挙を止めるべきだと主張する者もいた。

メイ首相は総選挙を求める理由として、野党が議会で邪魔だてばかりするのでブレグジット交渉の障害になるとし、各

党をいちいち名指しして理由を述べた。EU国民投票を労働党は残留支持で運動したが、離脱の結果を尊重し、五〇条発動に賛成していたし、そもそも議会は政府の方向性を検証したり修正したりするための機関で、それがなければ独裁だ。さらに、この時までコーピン党首は、効果的な「公式野党」運営ができていない、野党としての存在意義がないとメディアからひっきりなしに攻撃されていた。そんなわけで、メイ首相の言い分はまるで筋が通らなかつたが、タブロイドの見出しには適切だったのだろう。

EU国民投票以降、テレビでもラジオでもソーシャルメディアでも議会でもさえも、英国人の議論の質が著しく落ちた気がする。論理的な説得が通じない場面がしばしばあり、一方で、同じ言葉遣いで議論できない階級を蔑むような言動もよく見られる。普段は公平で公正な人々が、ブレグジットの話には別のルールを適用しているようだ。

総選挙への賛同声明でコーピンは、キャメロン政権とメイ政権の七年間に及ぶ緊縮財政で、ぼろぼろになった国民保健サービス（NHS）ほか社会保障を建て直すために議席増を狙うと抱負を述べたが、奇妙なことに、この選挙のメインテーマであるブレグジットにはふれなかつた。

ブレグジットに関して、労働党は難しい舵取りを強いられ、いたのだ。労働党支持者の三分の二は残留に投票しており、同時に同党現職議員の約六割が離脱多数選挙区の議員だった。

メイ首相がブレグジットを主軸に選挙戦を展開しようとする理由もそこにあり、労働党は、ブレグジットに賛同すれば六割の支持者を、反対すれば六割の議席を失う危険性があった。コーピン労働党は奇策に転じた。ブレグジットについてはほとんど語らないことで議論を無力化したのだ。それを可能にしたのが、社会のあらゆる階層の人々に訴える社会主義者のマニフェストで、ブレグジットは約一五〇ページある政策群の一項目に埋もれた。

コーピン・プロジェクト——運動の政治

この後に展開された選挙戦は、英国選挙史上まれなもので、労働党は選挙前世論調査での保守党との支持率差最大二五%ポイントを、投票日には二%ポイントにまで縮め、結果、三〇議席増となる結果を獲得した。大幅議席増を狙ったメイ首相のギャンブルは、一三議席減で過半数割れという予期せぬ結果に終わった。英国のエスタブリッシュメントにとっては、国民投票での離脱勝利という望まぬ結果の修正になるはずだった総選挙が、またしても予測を裏切る結果になった。

労働党は大学再無料化や最低生活賃金一〇ポンドなど若年層向けの公約を掲げて選挙登録を奨励したほか、高齢者や子育て世代にも配慮したポピュリスト型公約で、社会全体の「連帯」を呼びかけ、政治参加を活性化させた。負担も利益も全体で分け合う社会ビジョンを示した労働党のマニフェスト